

① 原材料調達(中東情勢・供給懸念)

Q) イラン情勢における「目詰まり」という表現がありました。御社として現状および1年半程度先までの原料調達は確保できているのでしょうか。また、それ以降の調達についての楽観・懸念の度合いを教えてください。

A) 現時点において、2026年度第1四半期(足元5月時点)では、中東情勢による原料調達上の問題は発生しておりません。また、第1四半期末(6月末)に向けても、供給は継続可能と見込んでおります。第2四半期以降についても、原料メーカーと調整を進めており、前年実績(ベンチマーク)相当の数量であれば、供給は確保可能との見通しで計画を策定しています。それ以降については不確実性が残る状況ですが、現時点では「前年並みの数量であれば確保可能」という前提で見通しております。今後の外部環境の変化によって影響を受ける可能性はありますが、現状は以上の見立てです。

② 価格改定と業績への影響

Q) 価格改定は決算業績にどのように表れるのでしょうか。足元で原材料価格が高騰した場合、短期的には利益が押し下げられてから価格転嫁が進むのでしょうか。それとも、収益性を維持できる形で転嫁できるのでしょうか。

A) 現在、原材料価格は上昇しており、当社としてもそれに対応した値上げをお願いしております。その過程においては、どうしてもタイムラグが発生すると考えております。年間ベースで見た場合、約15%程度は価格転嫁が追いつかない可能性があると思っておりますが、それ以外については概ね転嫁できる前提で計画を策定しております。なお、価格交渉は今後も継続するものであり、外部環境の変化などにより前提が変動する可能性はありますが、現時点では上記の見通しとしております。

③ 半導体関連製品の成長性

Q) 半導体市場の成長が続く中で、御社製品の採用拡大を期待しています。半導体関連製品の特徴や、今後特に成長が期待できる製品・材料について教えてください。

A) 資料(28ページ)でもご説明しておりますが、現在注力しているのは低誘電材料分野です。特に、「低誘電中空ポリマー微粒子」や「低誘電軟質ポリマー微粒子」に注力しています。このうち、低誘電軟質ポリマー微粒子については、従来の中空ポリマーをさらに柔軟化した材料であり、それにより半導体用途の適用部位が拡大していると認識しています。半導体分野では、部位ごとに求められる性能・品質が多様化しており、当社としては、ポリマーの品種拡充や顧客要求に応じた材料開発を進めることで対応しています。現在も顧客と共同で開発を進めており、今後、半導体分野向け材料としての成長を見込んでいます。